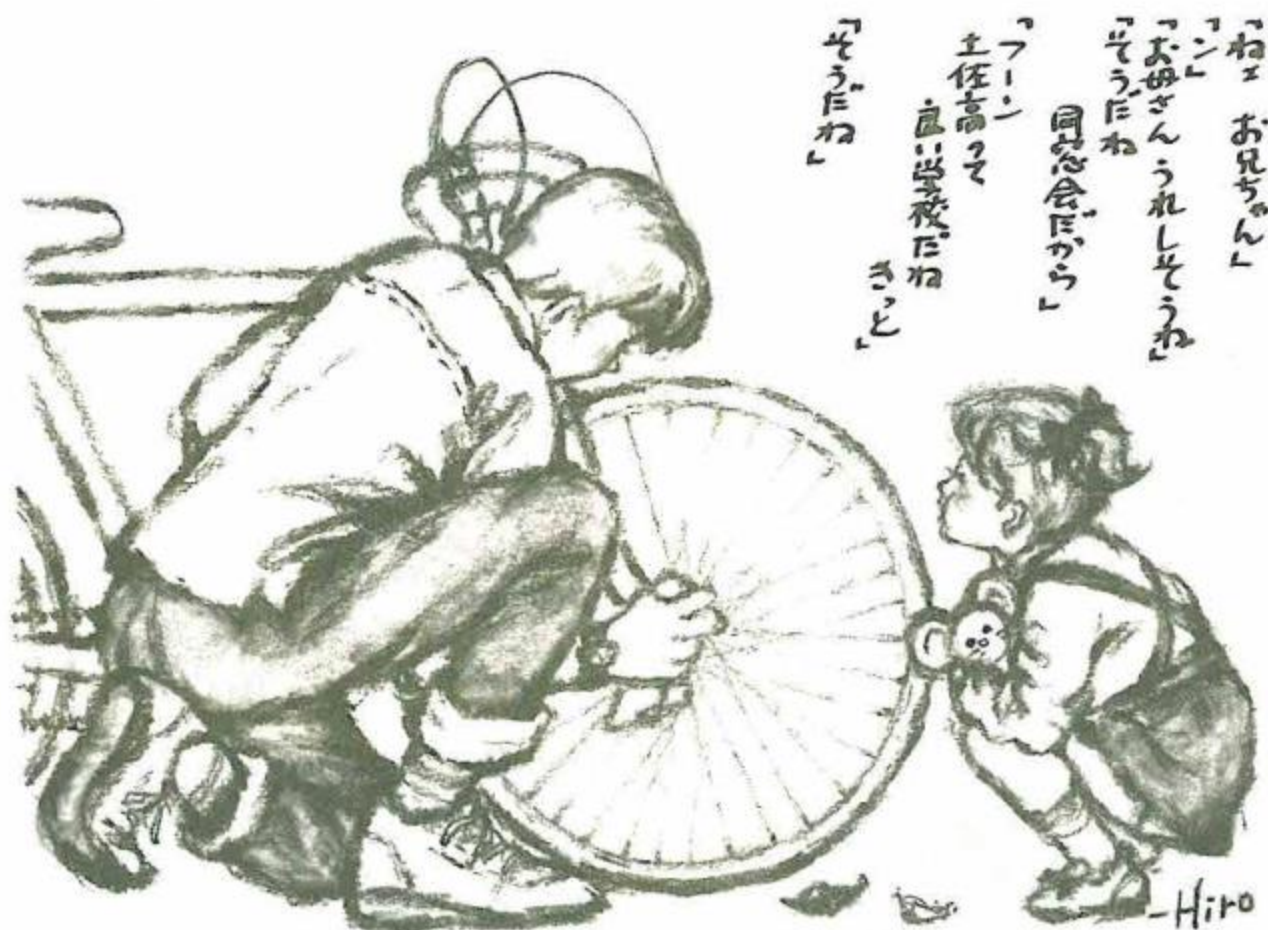


筆山

第13号/1992. 1

土佐中・高同窓会 関東支部会報

〒112 東京都文京区水道1-10-7 同学社気付 ☎03-3816-7011/FAX 03-3816-7044 編集人/戸田博之 (38回)



「ね、お兄ちゃん」
「お母さんうれしそうね」
「そうだね」
「同窓会だから」
「フーン」
「土佐高つて」
「広い学校だね」
「さうだね」
「さうだね」

「東京物語」

東京には「もの」も「情報」もあふれるほどある。「遊び」だって際限なくある。まるで科学と経済の繁栄の極致にあるといつてよい。

だが、人は何かが足りないと感じはじめている。過剰感と欠乏感のはざまでは戸惑い、カオスの中で不安な心さえもいだいている。

そのような都会人達が、ふと「物語」のもつ心のときめき、ロマン、人の温もりに目覚めてきた。ものがたりのない贈り物には恋人はときめかない。横浜や神戸には多くのストーリーラインがあるから人気がある。広告・CMだって同じことがいえるのだ。

一昨年出版された「アルプス席の全力疾走」が私達を感動させ、阿久悠氏の詩が涙させたのは一体何だったろうか。同窓生との何気ない一言は時代をこえて「物語」をつくり始める。それは記憶が時間と空間をこえ、新しい解釈を得て生き生きと現在に蘇るからだろう。故郷を離れて生きる我々にとって「同窓会」がそのような場でありたい。また、母校は誇りと勇気、新しいよろこびを与えてくれる存在であって欲しいと願う。

92総会開く



出席者の感想

「非常に土佐的でよろしい。ところで高知の方は橋本大二郎氏の知事就任で、良い方に変わるかも知れない」

(34回横川二郎)

「学生の時以来15年ぶりに2回目の出席です。その時は三十名程度のこじんまりした雰囲気でした。今回、立派なホールで催すことに称賛します」

(48回町田直明)

「東京にずっといると自分の基盤が薄らぐ気がするが、こんな機会があると風土意識が甦る」

(49回吉村英作)

「若い人が少なく全体の二割ぐらいかな。母校から先生を

もっと招いて」 (51回生)

「今後とも続けてもらいたい。高校時代の思い出は、三〇・四〇代になっても懐かしいものだ」 (52回中内憲二・真奈)

「初めての参加。盛会にびっくり。普段会えない人に会えて面白かった。愛校精神が高まった」 (53回公文美保)

「同期が少ない(二名)。学年の代表が何か提案、発言する機会を設けてはどうか」

(54回東条浩幸)

「立食パーティーだが、座敷があったりしてざっくりばらんなのがよい。若年層が少なすぎる。参加意欲を高めてほしい」 (62回加茂雄二)

関東支部の新年総会が一月十一日、サンケイホールで開かれ、同窓二六四名が出席した。母校からは森田幸雄校長、中沢節子先生。恒例の講演は七回生の公文公・公文教育研究会会長。ユーモアたっぷりのお話のあと、出席者全員に喜寿記念出版の著書「やってみよう」と色紙を下さった。

懇親会では、ホールの半分に畳を敷くというまさに土佐流の会場で座るもの立つものそれぞれに、大いに旧交を温めあった。

どーんとタタミ60畳

飲んだ銚子が八〇〇本



年会費3千円に

新幹事長は溝渕氏

一月十一日サンケイホールで開いた新年総会の結果、年会費を従来の二千円から三千円にすることが承認され、今年から実施されます。

同窓会活動が活発になるにつれ、本部・支部との交流も盛んになり出張費の補助などの費用が増加してきました。

さらには「筆山」の年二回の発行、支部名簿の発行に伴うコンピューター導入etc。

これまで年会費と筆山広告収入でまかなってきましたが、広告も特定の方々に集中せざるを得ない状況でした。

そこで去る十月開かれた学年幹事会で審議の結果、同窓会の活動を益々充実させていくためには年会費の値上げやむなしとの結論に達し、六年前会費制が導入されて以来初めての値上げ案が今回の総会に上程、承認されたものです。

各位の積極的な協力をお願いいたします。振込先は次の通りです。

年会費3千円(学生無料)
振替東京71142816
土佐中・高同窓会関東支部
事務局あて

◇平成三年の年会費納入状況は、一〇一五名の方から合計二〇三万円の振込みを頂きました。ありがとうございます。

◆新役員

支部長	宮地 貫一 21回
幹事長	溝渕 真清 32回
副幹事長	壺坂 鋭子 28回
〃	窪田 秀忠 38回
〃	鶴和 千秋 41回
事務局長	岩村 康生 41回
会計	吉井 雄二 49回
監査	山本 高敬 25回
〃	吉野 保徳 31回
顧問	進藤 貞和 3回
〃	北岡 龍海 5回
〃	近藤久寿治 6回
〃	曾和 純一 16回
〃	浅井 伴泰 30回

なお浅井氏は本部同窓会の副会長を兼任します。

恩師にローマの旅をプレゼント

49回生ら教え子百人

「ローマ史」を専攻し、ローマへの旅に熱い思いをよせていた着任早々の西峯隆博先生の夢を実現させようと、教え子の四九回生が発起人になり、五二、五五、五八回生も含め有志約百人が卒業後十七

◆本部だより

八月十七日、三翠園ホテルで総会開催。新役員が次の通り決定しました。

会長	町田 守正 16回
副会長	山崎 和孝 26回
〃	浅井 伴泰 30回
〃	中岡 民 31回
〃	岡内 紀雄 34回
幹事長	池上 武雄 28回
副幹事長	大久保浩二 32回
〃	永野 和宏 34回
会計	千頭 裕 58回
監事	大畠 永弘 18回
〃	森木 将雄 32回
名誉会長	森田 幸雄
顧問	中島 暁 10回
〃	松浦 勲 13回

◇平成四年度総会

八月十五日(土)三翠園ホテルにて開催されます。

年かかって給料の中から一三〇万円を積み立て、西峯先生夫妻にヨーロッパの旅をプレゼントした。

西峯先生は「あまりにも過分なこと」と申し出を固辞してきたが、教え子たちの強い勧めで昨年の夏休みに、ロンドン、ローマ、アテネなど二週間の旅をした。この美談は朝日新聞高知版、テレビ高知

県高校秋季剣道で男子2年ぶり優勝

全国選抜大会の県予選を兼ねた県高校秋季剣道大会で土佐高男子剣道部は2-1で学芸を下して2年ぶりに優勝、全国大会出場を決めた。

「文武両道を走る」 母校のビデオ完成

母校の宣伝用ビデオがこのほど完成した。創立から現在にいたる70年の歴史を十七分間にまとめ、漫画家黒鉄ヒロシ氏をはじめ各界で活躍中の人物も紹介されている。

お悔み申し上げます

8回安岡善則氏(91・10・5)
31回本山正子氏(91・5・14)

で報道された。

西峯先生は帰国後、さっそく教え子たちに記念写真で作ったテレホンカードを添えて、旅行報告を兼ねた札状を出したが、その中で「私の教師生活において二度とない感動的な出来事。素晴らしい生徒諸君に巡り会えたことを無上の喜びとするところです。生徒と教師の間にいつまでも血の通った、信頼の絆が保たれ、人間的な触れ合いを育める土佐高であってほしい」と書いている。

サッカー部創部 四〇周年記念OB会

真夏の太陽が照りつける八月十日、県立春野運動公園球技場に、還暦間近の27回生から、孫のような中学生まで、総勢約二百名が全国から集まり交歓試合が行われ、年を忘れて一つの球を追った。

夜はサンライズホテルでの交歓会。酔うほどに涙腺が緩み、懐かしさで感涙にむせぶ光景が会場のあちこちでみられた。また記念行事にあわせて、72頁判ハードカバーの立派な記念誌も刊行され、各世代の思い出があふれんばかりに綴られている。

戦いすんで……

三〇回 浅井 伴泰



八月の同窓会本部総会は、校長と同窓会会長が替わった初めての会なので、関東支部からも出るだけ多く出席しようと話し合ったのは夏の初め。ついでに東大二百勝の時の縁起の良い関東支部ののほりを持って、野球部合宿中の安芸キャンプを激励しようと話はエスカレート。

宮地(21) 溝淵(32) 窪田(38) 岩村(41) それに私、浅井(30)の各役員が行くことになった。背景には「一時間三十分」の悔しい八九年夏の甲子園からまる二年、もやもやした気分が続いていた時に龍尾監督から頂いたお便りの「野球部史上最多一七名今春入部」をこの目で確かめたいとの思いがあった。

そのうちに33回の宮川氏が卒業33年目の同窓会に出席するとはりきって

いるのを筆山12号で見て、野球部激励に同行しようと勧誘。翌日の記念ゴルフに備えて練習ラウンドの予定があると、しるる同氏を無理やり引き込んだ。

当日の安芸球場は朝からカンカン照り。指導のため帰高中の萩野氏(44)と、地元の高知県議(37)、コーチ役の浜村(35)各野球部OBも姿を見せ、ネット裏は盛況。バックネットにのほりを掲げ、選手諸君を激励中に宮川氏が足をひきずりながら到着。聞けば、バスの乗継ぎの遅れを取り返すため、近道をしようと思い、シムの崖から飛び降りて負傷した由。選手たちには「この先輩のようにケガをしないようがんばって欲しい」と話のオチにし、たいしたことはないだろうと思っていた。

ところが、元同窓会副会長の故長野光昌氏の墓参の後の監督激励会に松葉杖で現れ、一同びっくり。翌日の33回生の記念コンペはおろか、約一ヶ月は松葉杖のお世話になる思いがけない重傷になった。ゴルフバッグをかつぎ、同期生との記念ゴルフを楽しみに高知空港に降り立った宮川氏

の姿と、松葉杖の形がオーバーラップして、その夜は申し訳ない気持ちで明け方まで飲んだ。

八月の新人戦は準決勝で高知商に敗れたものの、準々決勝の中村戦では0対6の劣勢から九回一挙に追い付き、延長戦で破り秋への期待を高めた。十月中旬、エース津野肩痛の報にがっくりしたが、吉川投手が奮起して、高知商、高知に連続逆転勝ちし、決勝戦は岡豊を1対0でやぶり、二八年ぶりに優勝し四国大会に進んだ。

二八年前といえば四国大会で優勝し、甲子園では準決勝まで勝ち進み、ジャンボ尾崎の徳島海南に1対0で負けはしたが見事ベスト4に輝いた。40回生の島村、寺尾、小串諸氏が活躍した年である。

四国大会は高松球場で開かれ、一回戦で地元坂出商業と対戦し、健闘空しく4対1で惜敗し、十六年ぶりのセンバツ出場の可能性は薄らいだ。大会を前にして関東支部でも、県大会優勝の喜びとセンバツへの期待をこめて、華やいだ会話が飛び交い、中には一日遅れでつく高知新聞の記事が待ちきれなくて、実家にファ

ックスを頼んだ人もいた。高松へは三宅、鶴和(41)萩野(44)森山(61)各氏が応援に飛んだが、K(38)氏は高松と松山を間違えて切符を買って、キャンセル待ちも直前の十二番でアウトとなり羽田で立ち往生したとの事。

負傷回復の宮川氏を含む残留有志十数名は、県予選の高知商戦前夜に選手達が五百グラムのステーキを食って(テキを食う)宿敵を破った話を聞き込んで来て、坂出商戦前夜に本郷の老舗のすき焼き屋「江知勝(えちかつ)」に集まり、「ゴウチカツ」と読んで、怪気炎をあげたが、どうやら「が」と「に」の助詞を付け間違えたらしい。それにしても、「中年男が選手と同じものを食う」という発想に問題があった」との声や、「当然応援に行くべき人がいかざったきに負けた」などと、とにかく外野席はうるさい。四国大会で負けて三日目に母校で同窓会の役員会があり、帰りにグラウンドに足をのばした。あの暑い安芸キャンプから丁度百日目。グラウンドには三日前の敗戦が嘘のように選手達の元気の良い声が飛び交

つていた。幸い、将来のエース津野投手の肩痛も回復し、来年に向けての展望は明るい。冬の間体力トレーニングに励

母校野球部残念観戦記

あつ、あゝ甲子園が、甲子園が……

平成三年十一月二日早朝、羽田発高松行きの搭乗手続きの列に並んだ。偶然か必然か44回生萩野氏に遭遇。彼もまた次の便で高松に向かうとの事、後刻の再会を約す。

本来この機で事務局長の岩村氏が秋期四国地区高校野球大会での母校応援に出向く予定であったが、珍しく本業多忙とのことで小生にお鉢が回ってきた次第である。

二八年振りに秋の県大会で優勝した母校野球部は、この日坂出商業と対戦するのである。過去三度の県大会優勝の年は、いずれも四国大会を制し春の甲子園に歩を進めている。従って応援に行くと言うより甲子園出場決定の瞬間に立会い、その感激に浸るのが目的の出立であった。

離陸後一時間、讃岐平野に浮かぶように点在する丸い山々と、春の様にたゆたう瀬戸内海の景色が眼下に見え始め

み、夏の甲子園に向けて籠尾監督、楠目部長の指導の下、大いに頑張っている。

四一回 鶴和 千秋

る。あの峻険な四国山塊と荒々しい黒潮の流れに鍛えられた土佐高球児が、こんな長閑な風土の中でノンビリ育った讃岐勢に負ける筈が無い。勝利への確信は益々強固なものとなる。

空港より車で約三十分、県営高松球場に着くと、高知から、関西から、東京から、野球部OBその他、十数名。隣の集団は選手の父兄約十名。おっと、その中に同級生の旧姓細木さん。彼女の息子は控えの小川選手。母親に似て長身で、なかなかの二枚目。彼の様な大型選手を控えに回すとは、今年のチームは余程戦力が充実しているようだ。

12時50分、試合開始。一回裏、右翼手が目測を誤る二塁打と送りバント、スクイズで一点献上。「試験でこんなミスをしたらいかんぞ」余裕の微が飛ぶ。二回、今度は連打で二点を取られる。県大会を

一人で投げぬいた吉川投手やや不調。応援席に少し不安の色が漂う。四回表、二塁打と送りバント、四番吉川の犠牲フライで一点を返す。「さあ、これから」と意気上がる。続く、五回二死二・三塁、一打同点のチャンス。一番津野の強打が三塁線を襲う。しかし、相手三塁手の好守備で追加点ならず。その後、試合は淡々と進み、八回にも一点取られて四対一。あれよあれよと言う間に最終回の攻撃。ここで天の佑けか振り逃げで走者が一塁に生きる。勝利の女神は未だ見捨て賜わず。しかし、後続なく最後の打者の打球が無情にも内野に転がる。「あつ、あゝ。甲子園が、甲子園が……」絶叫と悲鳴が交錯する。相手内野手の送球が一塁手ミットに吸い込まれる。「あゝ、万事休す」頭の中が



真っ白になる。

「おんしゃが見に来たきに負けらあや」「いつつも応援に来る奴が今日に限って仕事にあずかるきに負けたわや」

「間違えて松山行きの切符を買ったバカがおるきに……、あいつが一番いかん」。束の間の甲子園の夢はバブルのようにはじけてしまった。

しかし皆さん、後輩達は立派に戦いました。純白のユニフォームは、いささかの小細工も弄さず全力疾走で駆け抜けました。けれども、いささかの正々堂々の土佐高野球は健在でした。一年生エースの津野君も復活し、相手校に見劣りしない立派な体格の選手達からは、かつてのひ弱さは微塵も感じられませんか。籠尾先生の指導の下、近い将来彼らはきっと、我々に熱い夢を見せてくれることでしょう。



新日鐵八幡の 野球部監督に 萩野友康氏

長い間、学年幹事として活躍した萩野友康(44)氏が、このほど新日鐵八幡の野球部監督に就任した。同氏は昭和49年の都市対抗で同チームのエースとして準優勝に導き、久慈賞に輝いた実績があり、また高校、大学(慶応)、社会人時代にそれぞれ全日本チームに選ばれ海外遠征し、同窓生としてただ一人ドラフト指名(広島カープ)された球歴がある。

現役の社会人野球の監督は住友金属の高多倫正(47)氏と二人だが、池上氏(28・四国銀行)上岡氏(42・NKK)と合わせて四人目となる。都市対抗野球の決勝戦が同窓対決になるのもあながち夢ではない。

センバツ選考 委員二人に

なお、今年からセンバツの選考委員に福岡啓助(32)氏が選ばれ、永野元玄(29)氏と二人になった。アマ球界の指導者として同窓諸氏の活躍は目ざましい。(A)

うらかたの記

名簿を支える男達

四十回生 大石 和男

四、五年前の事だったろうか？年末に突然事務局から分厚い封筒が送られてきた。何だろうと開くと、筆山、新年総会案内状の送付の依頼である。それらを折り畳んで封筒に入れ、切手と宛名シールを貼り、会員宛に郵送しろとある。「この忙しい時期に……」

と、いらいらしながら家内に手伝わせて送った覚えがある。宛名シールも住所を手書きしコピーしたものであった。これが幹事になって最初の仕事である。

しかしその後、幹事会、総会その他と出席していると、我々など文句一つ言える筋合いではない事が分かってきた。事務局長岩村氏(41)の仕事は大変な労働なのだ。ボランティアなんて生易しいものではない。いかつい顔をしてズバズバものを言う彼であるが、根は純情、濃やかな神経の持ち主で、同窓会の生き字引、屋台骨そのものである。その彼が不平もいわずやっている

姿をみると頭が下がり、彼の仕事を軽減してあげねばという思いにかられた。

この頃の事である。名簿発行の話が持ち上がった。私はいつそのこと名簿のデータベースを作り、会費その他統計処理もコンピュータ管理すれば、岩村氏の仕事も少しは楽になるだろうと考えた。学年幹事懇親会の席上、小島氏(40)と共に提案し、早速その場で浦部(51)・横川(52)・高村(53)氏の協力を得て、初期のスタッフが集まった。パソコンを買って貰い、平成元年の学年幹事会で事務局長の英断？で、他の総会、筆山チームと一緒に正式に名簿チームが発足した。

当初のチームの牽引役は浦部氏であった。彼は「わしグループ」の御曹司。当時はイトーヨーカドーで修業中で、在庫・顧客管理を生かし、てきぱきと日程表をつくり、名簿のデータベース書式を作成してくれた。今は高知に帰り、

帝王学を勉強中である。

高村氏は三次元グラフィックスの開発をしていてソフト屋の筈なのだが、ファイル処理は畑違いかキーパンチャーに徹して黙々と打ち込んでいた。彼も「ハイパーブラザーグループ」の御曹司。何れ実業家として浦部氏と共に高知を背負って立つべき人材である。早く高知に帰れと言っているのだが……。実は一年少し前に結婚したばかり。ピアニストである美人の奥さんには逆らえないのである。子煩悩なハンサム・ボーイである。

ソフトの実務は横川・島内(53)の両氏である。この二人の頭脳を抜きにしては名簿は出来上がらない。東京の電話番号の頭に3を加えたり、データのダブリをチェックするプログラムをいとも簡単に組んでしまう。二人とも異色で、横川氏は文学部卒が何故かソフト屋になり、今はリコーでファジーを研究中。口癖は「高村に誘われなかったら……」「高村に騙されて……」。同じリコーの高村氏へのほやきである。そう不平を言う割には結構マメに出席する。人より二・三時間遅れてではあるが、自分の役割が分かっている。

いて要領が良いのである。

島内氏も獣医学部卒のファームウェアの専門家である。日本テクナートの上司の門田氏(43)と共に小島社長に引き摺り込まれた。社長曰く「これは社長命令ではなく、自発的に参加してくれているのです。有難い事だ」。門田部長はチームの事務窓口を任されている。

まず、三千人分のデータベースを作らなければならない。

大変な仕事である。人海戦術しかない。私が引き受け、学生アルバイトを使い入力。ところがこれが大の誤算。間違いだらけ。年末発行予定というところで、結局私がデータの訂正に追われることになり、目は霞むし、約二週間ふらふらであった。ところが本部の七十周年名簿と重なるとの理由で流れ、暫定版が平成二年の新年総会で配布され、少しがっかりしてしまった。



同窓会関東支部の財産 パソコンを囲んで

島大 中 鶴 関 門
内 石 滝 横 小 和 田 の 諸 氏
川 島



弘瀬氏 (37)



浦部氏 (51)



高村氏 (53)

平成三年、今年こそ本番というところで再スタート。まずは七月の筆山に合わせて修正用の原簿を配布した。しかし驚いた事に、わずか一年余りの間に、住所・勤務先の変更が約六百件。名簿は生き物であることをつくづくと思ひ知らされる。この訂正がまた地獄で、五月一八日から七月二

七日まで殆ど毎週、土曜日の午後一時から、遅い時には九時半過ぎまで打ち込み作業を続けた。この時の一番の被害者は門田、島内両氏だろう。休日だというのに出勤して会社の鍵を開けて待っている暇に暇がない。

新たに加わった池田出身の頑張り屋、日産自動車の中滝氏(55)の参加で大いに助かった。彼は勉強家で証券疑惑が問題になる以前に「THE NO. MURA HOUSE」を読んでいた。これと並行した名簿印刷の渉外は北越製紙の関氏(59)。実家も紙問屋だそうである。彼も張り切りボーイで、私は一度印刷屋を紹介しただけで、

後は全て彼がやってくれた。今度の名簿用紙の調達も彼の才覚と聞く。浦部氏の立派な後継者である。

弘瀬氏(37)はジャパン石油開発勤務。時折、差入れをもつてタコ部屋を訪れ、一緒にチャイも入れる。落ち込んでいるメンバーを見つけては「おまん、しょう男前じやのう」。これが出ると笑いとともな活力が部屋に蘇る。

遅くなったが、委員長の小島氏の紹介。彼は中学時代からエレクトロニクスの虫、世界初の漢字プリンターを開発した男である。一号機は上野の科学博物館に展示されていると聞く。その後、勤め先の経営が傾き研究所が閉鎖されたのを機に独立した。周辺機器開発の頭脳会社である。名簿チームでの彼の役割は本業である社長の「地」を生かした決裁と接待?金の無い我々サラリーマンは労力を提供し、労力を出さない社長はたかられるという構図である。小島君、いつも申し訳ありません。

時折は彼の奢りで新宿、渋谷と繰り出し、裏方の憂さを晴らした。付け加えておくと、彼のカラオケはセミプロ級で、夜の世界では何処でも「サブちゃん」の通称で愛されている。また事務局に対して強力にチームの意見を通してくれる凄腕の持ち主である。本人曰く「私は私のサブちゃんです」。彼の夢は日本テクナートを一部上場会社に育て上げることである。

また現在、財源である寄付、広告集めを新副幹事長の鶴和氏(41)が筆山の広告部長の顔を利かして、協力をしてくれている。彼は六本木司法書士合同事務所の共同経営者である。

このように沢山の人が不平も言わず、ボランティアを買って出てくれるのが同窓会の良いところ。学生時代に経験しなかった楽しみでもある。

〔編集局より〕

筆者大石氏は現在、帝京技術科学大学情報学部物理学教室の助教授であり、主に半導体の基礎研究に携わっておられます。いつも笑顔絶やさず、若いスタッフの良き相談役といった役割を果たされています。

新聞に或る若い職業婦人の声が出ている。「……。今は子供を持つと損と思わせる何かがある。私自身二人の子を育てているが、忍耐と努力が7で幸福は3、差引マイナス4だ……。」(34歳)

臆面もなく、こういう事を平気で公言して憚らないおとな?が増えている。「子を持つとソン」などという発想は一体どこから出て来るだろう

か。子を持つてば親は苦労にいとまがないぐらい、中学生でも知っている。風邪をひかせまい、怪我や火傷に気をつけよう、食事は果して充分かなど、子を持つ親の気遣い・気苦労は全く枚挙し切れない。

今はまだ良いが、戦前は掃除機も洗濯機も冷蔵庫もなかった。そのうえに、大抵は子沢山であったから、母親の苦労と労働は大変なものだった筈だ。子供を持てば「損」に決っているではないか。

「得だから喜んで子供を育てよう」という別の例を私は知っている。それはアラブのある国で運転手をしている男である。彼は次々と子供を生んでとうとう十一人になった。

「子供を何人持つのもお前の勝手だが、もう少し母体の健康とか子供の養育問題を考えればどうか」と忠告もした。しかし、彼が何故子沢山を歓迎するかが分かった。適齢期の娘を嫁にやるときに結婚金が入る。これを彼は老後の資金としようとしていたのである。もちろん大方の日本人はアツと驚いた。

「得なら子供を生む」という立場、この点で件の婦人と運転手とは全く一致している。おまけに彼女なら、臆面もなく「子供を持つて損するのは国や社会が悪いからだ」と言うだろう。

自分が受けている恩恵や幸福をまず棚上げして、国や社会に対して自分の都合と損得を何でもかんでも主張する。これをケンドールの主張と心得ている御仁である。こういう恥知らずが日本のある部分で肥大しつつある。全く不愉快でイマイましいのである。

世相の不愉快

35回 伊野部 彦慧

今、こんなことをしています 10

ゴリラを訪ねて三千里

画家（一陽会会員）

阿部 知曉（51回）

私はいつもゴリラばかり描き、「ゴリラ画家」と名乗っている。七、八年ほど前、幼いゴリラの美しい瞳に魅せられたのがきっかけだが、そうなるかどうか進んでしまうのが土佐人気質。動物園を走り回る日々が始まった。

出会いを重ねるうち、ゴリラが笑ったり、泣いたり、怒ったり、ぶつぶつ文句を言ったりという表情が、私なりに分かるようになってきた。「この頃人間離れしてきた」と心配する周囲の人を尻目に、私のゴリラ行脚はますます広がっていた。



メス、それに子供たちという十頭から二十頭のハーレムを作って生きているのが普通なのだ。こうなったらゴリラを訪ねて三千里、野生のゴリラに会わねばと、ついにアフリカのジャングルに踏み込むことになった。

一九九一年八月、ケニアからブルンジを経てルワンダ、そしてザイールへ向かった。まず、東ローランドゴリラ（日本の動物園にいるのは西ローランドゴリラ）に会いに、ブカブという所の山に入った。七、八人のグルーブを現地の案内人とレンジャーが引率する。沼にはまるは、つるに足を取られてひっくり返るは……。覚えてたのズバリ語で「タファザリポリポリ（ゆつくり歩いて）」「ゴジャキドコ（休みましよう）」を発した。三時間も歩いただろうが、レンジャーが「今朝まで寝ていたベッドだ」と教えてくれる。草を敷き詰め、毛もいっぱい付いている。さらに三十分後、ガサゴソと草の音……。ついに東ローランドゴリラのマイシェ・ファミリーと出会うことができた。ミリアンティスという果物の実をポリポリと音をたてて食べて

いた。私も食べてみたが、かなり酸っぱい。でもこれが山の味、と幸せな気分だった。

今度は、マウンテンゴリラに会うために、ブキマという所で山登りだ。また悪戦苦闘しながら二時間余。レンジャーが「ほらいるよ」と上を指さした。木に子ゴリラが三、四頭ぶら下がり、ふさふさの毛のかたまりが動き回る。レンジャーが草を四、五本刈り取ると、大きなシルババックが姿を現わした。距離は一メートルもない。悠然と草を食べているゴリラに恐さより美しさを感じて、心が熱くなった。スケッチブックを取り出して描き始める。

サラマという名前のそのゴリラはじっと私を見つめ、静かにモデルになっ



別の場所に移動すると、昨年生まれたばかりの赤ちゃんを抱く母ゴリラ、夢中に遊ぶゴリラがいた。誰かが肩をとんとたたたく。振り返ると、隣にゴリラがいるのだ。私の頭をなで、肩を組んでのぞき込み、もたれてきた。七、八歳だろうか、好奇心旺盛な若ゴリラ。されるままに身をまかせた。帰路の足取りが軽かったのは言うまでもない。様々な出会いを重ね、ゴリラたちに教えられてきた。自然のこと、自分のこと。生きるテーマを彼らから与えられた。私の「ゴリラ訪ねて三千里」は、まだまだ続く。

爽秋にうたう

二七回 岩谷 清水

二四年間にわたって毎年数十曲ずつ、クラシックの創作歌曲が『新しい日本の歌』シリーズとして発表されているのをご存知の方は、少ないかもしれません。

近年童謡ブームなどと言われているが、創作歌曲も、いや創作歌曲こそ健在。そのありように触れて、日本の文化をあらためてしみじみと、味わってみることも、人間性を取り戻すためにも大切なことではないか。「新しい日本の歌」を生み出している母胎は『詩と音楽の会』で、会長は平井康三郎先生（五回生）だ。

こう聞けば、同窓生たる者、その発表演奏会を一回は聴かんでタマルか！ヘンシも早う！というわけで、昨年九月二十日、新宿は朝日生命ホールへ駆け込んだ。（シート、会場内で走ったらイカン！下駄ばきはイカンぜよ）。

第二十四回『新しい日本の歌発表演奏会——爽秋にうたう——』と題するコンサート

は、前夜と当夜の二日間にわたり、合計四六曲の創作歌曲を発表。最後の曲は平井先生作曲の『借景』（中山知子作詞）、歌うはソプラノの関定子さん。ほかに、ご長男の世界的チェリスト丈一朗氏の曲、ご次男でピアニスト、東京芸大教授、丈二郎氏の曲も組まれている。

作詞者健在、作曲者も健在、歌手もピアニストも、日本にはまだまだ豊富……という思いで、すっかり心ゆたかに、うれしくなった一夜。

会場でお会いした近藤久寿治先輩（六回生）に、「終つてから、チクと一杯……」などと、俗っぽい誘いをするなど、すっかり思いも浮かばなかったほど。

『新しい日本の歌』第24集は、歌曲Ⅰ、歌曲Ⅱの二分冊として音楽之友社から発売中。◇『桜月記』（39回・北村文典Ⅱ演出）日比谷・東京宝塚劇場で、二月二十七日まで。

甚田先生 歳時記④

ある思い出

田内瑞穂 先生

の中に何一つ孝行できぬまま、一月に父を、十一月に母を失った。「母倒る」の悲報に職員室をとり出して、自転車のペダルを必死に踏んだあの日の悲しみは今もなお忘れ得ない。

七日の供養を済ませて、体だけは出勤したが、然し何もかも悲しく、打ちひしがれた状態であった。そんな状態で、漢文の教科書を持って、中三のどこかの教壇に上った。

「起立ッ」委員長長の号令の下に、ホームの全員起立。すると……委員長が後ろの方から、起立した生徒の間を縫うようにして前に出てきて、私の前に立った。

「どうしただろう？」

そして、一瞬、私はホーム全員が私に何か抗議運動を起こした、と思った。そして私は素早く心の中で身構えた。前に出てきた委員長は静かに言った。

「先生のお母さんが亡くなられましたことを、私達生徒は心からお悔やみ申し上げます」

一瞬、私はわが耳を疑った。抗議ではなかったのだ。そうと分かると、心の中で身構え

た自分自身に愧じ入った。そして、喉に溢れてくるものを感じつつ、心の中で嬉し泣きに泣いた。母への何よりの供養だと思ったからである。

不孝な息子に代わって、この愛すべき生徒諸君が償いをしてくれた様に感じた。これを契機に、私は母を失った深い悲しみから立ち直ることができた。

あれから丁度四十年の歳月が流れた。しかし、あの心優しい生徒諸君の像は今なお、私の心に焼き付いている。あの時の委員長は山本巖君（30回）であったと思う。上背こそ余り無かったが、どっしりとした体格の生徒だった。諸兄に改めて感謝し、併せてご健勝を心から祈念いたします。



42回生 中3時の授業風景

谷川氏の大任就任祝賀会開く

14回生の谷川寛三参議院議員の科学技術庁長官就任を祝う筆山会の忘年会が12月9日、芝グラントブラザで開かれ、同窓43名が出席した。母校から初めての大臣誕生ということ、堀(10)、西岡(28)、山本(46・代理)、中谷(51)の各国会議員も駆けつけ、西岡議員が「超党派で」と花束をおくった。

祝辞のなかで「私ら若いもんが、なんぼピチクつても今世紀中には大臣にはなれませんき」と最年少の中谷議員の挨拶には、拍手と爆笑の渦。終始なごやかな会だった。最後は例によって、天造氏(52)のエールと母校校歌の十数部合唱にて閉会。そして、また例によって「土佐酒蔵」へ。



進藤さんの銅像建立を祝う会

三菱電機の相談役、進藤貞和氏(3)の銅像が、高知・香我美町の同社工場前に完成したことを祝う関東支部有志の会が、11月15日池袋の「はりまや」で開かれた。

さて誰が前座をつとめるかと思案顔の幹事をしりめ、たてつけに「北の旅人」「恋心」「氷雨」と主賓の歌がでて、さすがに面目躍如。この日はやはりカラオケの帝王を自負する諸氏もトーンダウン。それでも皆で延々三時間、飲み歌いまくった一夜だった。

◇生存者叙勲(平成三年秋)

12 寺川博典 勲3 旭日中級章
13 野町昭三郎 勲3 旭日中級章
15 上田幸雄 勲3 瑞宝章
15 川添萬夫 勲2 瑞宝章
15 森下 茂 勲4 瑞宝章

興奮と余韻

32回 溝淵 真清

ハリウッドで、評判の芝居を観ました。出演者は10名、観客は全て透明人間という設定で定員40名。館全体(10、12室)が舞台。芝居はそれぞれの場で同時進行し、客は勝手に狙いをつけた役者について部屋から部屋へ移動(ある

レストラン 「Shirogane」



東京都港区白金5-16-28 リッツ白金3F 電話03-3449-0033

竹のよしずが天井や窓に張り巡らされて、モダンななかに落ち着いた雰囲気と豪華さが漂い、予想以上に立派な店だった。茶室風の個室もあり、商談にも使えそう。料理も厳選された材料を用い、酒もピカイチ。炭焼ステーキ、寿司会席、しゃぶしゃぶ、すき焼き、てんぷらの各コースがある(9,000円より)。

NBとはニュービジネスの略で「消費者と最前線でふれあう事から得られるノウハウを新規事業に生かす」実験室として始めたとのこと。クチコミで同窓生も結構利用者が増えているという。(予約電話03-3449-0033) (T)

千代田化工建設という社名からして、石油プラント建設の会社ということぐらいしかしなかった。そのNB推進室という部署から、ある日ダイレクトメールが届いた。何かの間違いだろうと思いながら、封を切ると、中身はなんとレストランの案内ではないか。混乱する視界に49回の二宮潔君の懐かしい添え書きがあり、同封の名刺にレストラン「Shirogane」取締役とある。宴会幹事のやりすぎで、とうとうソムリエでもやり始めたか、それにしても根っから明るい彼にはぴったりの仕事かもしれないと納得した。

早速ひやかしがてら、出かける。目黒駅から歩いて15分、

いは走る)。

入浴シーン(男性)、男女の情事シーンとからみあい、ピアノの演奏。オレンジや野菜を本気で投げつけて汁は飛び散る。唾を吐きかける。全てのシーンで激しいセリフのやり取りの連続。イタリアのある館で複雑きわまる人間模様が展開される。そして、服毒自殺とピストル射殺で悲しみの幕切れ。

三回観れば分かれるとはいうものの、全くの混沌。館内を駆け廻っての犯人捜し。脈絡をつかめぬままの進行でありながら、異様な興奮と感動があり、不思議な余韻を残してくれた芝居でした。

題名は「TAMARA」

◇土佐中OB医者の集い 昨秋、16回の浜田博之氏の音頭で赤坂「土佐」で開催。

同期会・同窓会

●28回 壺坂 艶子

28回生「向陽会」総会は十一月十六日、高田馬場ビッグボックス九階「アルファ」で開催、出席者約三十名。松浦勲先生をお招きして、盛大に開催。平成五年には卒業四十周年記念同窓会を開きます。

●33回 佐々木 泰子

土佐中・高校33周年
33年目のよりあい

ヨサコイ祭りのファイバーもさめやらぬ8月17日、百四名が高知ホールに集まった。

山本、横田先生をお迎えし、総会からも町田、古谷先生が駆けつけて下さった。

前夜祭から、釣・ゴルフまで、何と5日間の大同窓会。高知の幹事さん達はさぞ大変だっただろうと感謝。ホットしてまた酒？しようメッタ。

●38回 戸田 博之

十月十九日、芝グラウンドプラザにて、ほぼ一年振りの関東地区三八同窓会を開催。高知からの参加もあり総勢で三二名。今回はスッポンこと体操の森本先生をご招待。少々髪が白くなったとはいえ、相変わらずの色の黒さと胴の長さには懐かしさもひとしお。

会の終わり頃、先生からのたつての頼みありとのこと。何事かと思えば、先生は我々が中学に入学した年に赴任し、高校卒業時に退職したので、言ってみれば同期。是非、名誉三八回生として仲間に入れて欲しいとのこと。

思えばこれも何かの縁、一同異論のあるはずはなく拍手で承認（後々迄、幹事の仕事が増えることなど一切おかまいなく）。引き続き二次会では例の如くの喋りまくり飲まくり、まっことだれた。

●39回 大和田 洋子

師走の第一土曜日、我々39回生は何をさしおいても集います。今年は高知から中沢、山本（直）両先生をお招きし、仙台、長野、名古屋、愛媛等、日本各地から総勢四十名が駆けつけました。

卒業以来、初お目見えの方もいて、飲み、歌い、語り、心ゆくまで銀座、六本木の夜を楽しみました。

●46回 中村 健

20周年記念同窓会

高知の幹事の松山君より8月10日に高知で同窓会をやるきに帰って来いよとの連絡を受けてから関東支部の同級生に連絡したり、宿の手配をしたりしながらも心は一足先に高知に帰っていた。8月8日から一家全員で旅に出、16年振りの帰郷であった。久し振りの高知は昔と様変わりしており、よさこい踊りも以前と違っておられたただ驚くばかり。

同窓会は8月10日午後6時より新阪急ホテルにて全国より140名程集まり来賓としてTホーム担任元吉先生、Hホーム担任平岡先生、Sホーム担任高原先生、体育の西田先生、山本先生に出席して頂き盛大に開かれました。会場に入る

と懐かしい顔が揃っており、土佐弁まるだして旧交を温め、クイズ等もあり楽しい会となった。

2次会には新阪急ホテル地下で行われ、ゴルフコンペの発表と表彰があり、その後3次会4次会5次会……と明け方まで楽しく飲み、心に残る催しであった。

酔うほどに、おじさん、おばさんの顔が白線を着ていた頃に戻り、楽しい思い出、悲しい思い出、懐かしい思い出、それに今頃になつての告白やらと色々な話しが尽きず、夜が明けると現実の生活に戻るのが悲しくなるような楽しい会でした。

これを機により一層強い絆で結ばれた46回生、助け合いながらこれから先の人生を送っていく仲間と知り合えたすばらしい母校にあらためて感謝しております。

●北の同窓会

小樽にて

北海道は小樽に出張した夏のこと。小樽ときけば血が騒ぐ浅井先輩（30回）が、夫婦で遊びに行くという。しかも同窓名簿を点検して、小樽商科大学に井上巽先生という29

回生の同窓がいることまで調べ上げてきた。それならいっそ、小樽で北の同窓会でもやりませんか、などと半ば冗談で言っていたら、更に参加者が2人加わり、話はとんとんときまる。

学生部長という激務にある井上先生にスケジュールの調整をしていただいて、まるで台風のごとく押しかけた我々の相手をしていただいた。「北の小樽は恋の町」などと歌いながら、飲みながら、最後はやはり土佐弁で騒いだ。魚のうまさば抜群。来年もぜひの声。（41回 一）

出版レーダー

「実現させるのが男」赤堀正幸著・ダイヤモンド社・定価1500円
「1500円」岩崎弥太郎の夢を100年後に果たした福慧の男として、進藤貞和氏をモデルに描いた小説。
「やってみよう」公文公自伝くもん出版・定価1000円
「二歳で本が読める」公文公著・講談社・定価1000円
「ソ連崩壊」日テレソ連横断取材班（38回南勝次郎他）編日テレ出版部 価1800円

編集後記

◆阿部さんは土佐高在学時に県展に毎年入選され、その後大阪芸術大学を卒業。一陽会、現代美術選抜展(文化庁)、個展等、精力的に活躍中。「ゴリラ画家」として雑誌、テレビ等で紹介され、ご存じの方も少なくないと思います。実は彼女、かの浜口未喜子先生(保健体育)の御息女です。ゴリラと七面鳥……? (F)

◆九一年は証券の利益補填問題、銀行の不正融資、首相のリクルート疑惑の再燃、三三回の宮川先輩の左足骨折事件等、妙におアシに関連のある年だった。九二年は年男。景気予想では曇り、雨。せめて気持ちは一年中晴れといきたいもの。(T)

◆筆山8号で「セントポリーア談義」を読んで以来、曾和さん(16回)は花を連想させてくれる希有な男性の一人。セントポリーア展の案内を頂いたのは初冬。会場にはエプロン姿の曾和さんも。「花の方は期日に合わせて咲いてくれないと」と残念そう。豊富な品種や原種に近い色や型の説明に、私も挑戦意欲をかきたてられました。(U)

みうら

土佐弁で
語りあいましょ

三浦比彩子

(宝戸市古良川町出身)

〒107 東京都港区赤坂6-3-26
丸源57ビル3F 電話03-3582-7773Shirogane
Japanese cuisine and bar取締役
二宮 潔(49回生)アール・エム・インターナショナル様
東京都港区白金6-16-28 リッツ白金3F
電話03-3449-0033 Fax.03-3449-6873

SEIKO

山下成子(32回生)

大阪におこしの節は
ぜひお立ち寄り下さい。
お待ちしております。大阪市北区曽根崎新地1-2-12 タチバナビル
TEL (06)341-8220

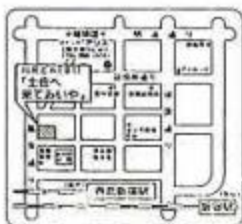
いごっそう

東京都港区六本木4-12-7

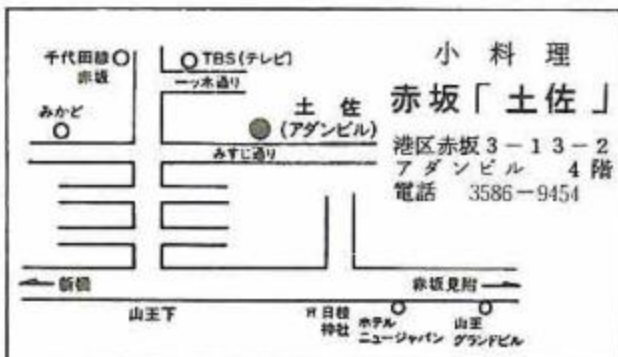
八森ビル4F

☎03(3405)0152・0159

いごっそう本店

高知市追手筋1-10-19
0888-22-1213くじら刺 1000円
くじらたたき 2000円
かつおたたき 780円新宿区歌舞伎町2-41-12 川井ビル
TEL 03(3209)0145

土佐へ来てみい



都会の中の小さな土佐

土佐料理 土佐酒蔵

〒104 東京都中央区銀座7-6-8(西五番街) ☎572-9640

- 赤坂店(赤坂みすじ通り) ☎3585-9640
- 新宿店(新宿住友三角ビル) ☎3344-6585
- 渋谷店(シオノギ渋谷ビル) ☎3407-9640
- 静鈴亭(新宿野村ビル) ☎3348-2727
- 加寿翁(新宿住友三角ビル) ☎3345-0881



季節のふるさとの味

銀座7-12-4 サンリード地階
☎3545-3855 銀座第一ホテル通り

土佐酒蔵